

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：田万川災害復旧助成事業における多自然川づくり		
水系/河川名：田万川水系田万川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：122.5km ²	整備計画流量：900m ³ /s(W=1/50)	セグメント：2-1
事業：災害復旧	事業開始年度：平成25年度	
目標設定：定性的	段階：D(実施・施工時)	
課題・目的(主な)：流下能力の確保、瀬・淵の保全・再生・創出、水際域の保全・再生・創出		
工法(主な)：築堤、引堤、掘削(河床)、護岸整備、河道法線修正、魚道、落差工、帯工等の整備		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、多自然川づくりのアドバイザー制度の活用		

背景・課題、目標設定

<背景>

萩市北部に位置する田万川では、平成25年7月豪雨において、観測史上最大となる時間雨量112mmを観測し、連続雨量は378mmを観測した。この豪雨により、田万川水系で、全壊19戸、半壊193戸、床上床下浸水117戸の甚大な浸水被害が発生した。

そのため、特に甚大な被害を受けた中流域において、災害復旧助成事業(以下、「助成事業」)により、大規模な河川改修を行うこととなった。

<目標>

災害復旧助成事業という限られた事業期間と、膨大な事業量のなかでも、多自然川づくりから目を背けることなく、山口県独自の取り組みとして行ってきた『水辺の小わざ』的発想を取り入れ、多自然川づくりに可能な限り挑戦する。

取り組み内容・対策例

【事例1】瀬や淵の保全対策

- ・出水により、元々あった瀬や淵が消滅したため、河道掘削を行う際に、瀬や淵の再生・保全を行った。
- ・瀬や淵の位置や形状は、ただつくるだけでなく、できるだけ被災前を復元するように努めた。

【事例2】既設魚道へ魚を誘導する「みず道」の創出

- ・堰直下の河床洗掘を防止するために護床ブロックを設置することとなったが、既設魚道があったため、護床ブロックを設置する際に、魚道に魚を誘導するためのいくつかの工夫を行った。

【事例3】現地の転石を利用した自然な落差工

- ・引堤により既存の落差工の増設が必要となったが、コンクリート構造物による単一な流れではなく、現地の転石を利用した自然な落差工を設置した。

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

【アピールポイント】

- ・災害復旧助成事業というタイトな事業期間かつ膨大な事業量のなかで、多自然川づくりに果敢に挑戦した。
- ・山口県独自の取り組みである『水辺の小わざ』で培ってきたノウハウを活用し、可能な限り知恵や工夫をこらした。
- ・発注者(県)側の多自然川づくりへの熱意や指導が受注者側にも伝わり、双方協力して、多自然川づくりに取り組むことができた。受注者に多自然川づくりの意識づけができたことから、スムーズに工事が進捗でき、受注者からも積極的にアイデアの提案もあり、発注者だけではできなかった工夫も行うことができた。

備考

問い合わせ先	山口県土木建築部河川課事業班
電話番号	083-933-3779